

### 県の成果指標

政策の柱1（第四期長崎県教育振興基本計画）  
一人一人に応じた最適な学びを提供する  
（成長の基盤となる資質・能力の育成）

目標値 令和10年度までに全国平均正答率以上

### 学校教育目標

『確かな学力と健やかな心と体を持ち  
自信と誇りをもって行動する生徒の育成』

### 目指す生徒像

- 目標達成のために主体的に考えることができる生徒
- 目標達成のために協力できる生徒
- 目標達成のために粘り強く取り組む生徒

<成果指標>

- ・全国学力・学習状況調査及び県・市学力調査において長崎市の平均正答率等を上回る。
- ・家庭学習に、1日あたり1時間以上取り組む生徒の割合65%を目指す。

### 生徒の実態

全学年ともに学力調査（全国・県・市）の平均を下回る。その要因として、次の5点が挙げられる。

- ① 基礎的な学習内容の未定着
- ② 家庭学習の不足
- ③ 学力の2極化傾向
- ④ 問題を読み取る力の不足
- ⑤ 困り感をもつ生徒への個別支援の不足

【令和6年度データ】

<3年：全国学力調査・県調査>  
国語、数学、英語で全国平均および県平均を下回っている。  
<2年：県学力調査・市調査>  
国語、数学で県平均を下回っている。  
<1年：長崎市学力調査>  
国語、数学で全国および市平均を下回っている。

### 授業改善：校内研修の充実

「自分で考えて判断し行動する生徒の育成～トライ&エラーを繰り返すことで成長し続けられる生徒の育成を目指して～」

- P（plan）D（do）C（check）A（action）サイクルを実行する力を身に付けさせ、学力向上を目指す。
- すべての職員が、授業班、学級経営班、総合特活班、タブレット班のいずれかに属し、研究部会や生徒指導部会等での研究の推進状況を確認し、効率的な研究の推進を図る。
- 「めあて」によって学習の見通しをもち、「まとめ」によって学習内容の定着を図る授業を目指す。

### 学習意欲の向上、家庭学習の定着

- ・自主的、自発的な学習の促進
- ・見通しを立てたり振り返ったりする学習指導の重視
- ・「やることリスト」の活用
- ・指導の評価と改善（良い点や進歩の状況、過程の成果等をもとにした指導改善）
- ・各教科における計画的な課題や復習の推進

### 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・個に応じた指導の充実（繰り返し指導、補足的な学習、発展的な学習等）
- ・体験的、問題解決的な学習
- ・学力診断テストの実施、分析、活用
- ・キュビナによる既習事項の復習
- ・授業における「読む活動」の設定
- ・リーディングスキルトレーニングの実施
- ・研究部タブレット班との連携によるICTの有効活用

### 思考力・判断力・表現力等の育成

- ・各教科における言語環境の整備と言語活動の充実
- ・「主体的、対話的で深い学び」の実践
- ・読書活動や生徒会活動、学級活動等における言語活動の充実
- ・校内研修、研究内容の実践による表現力の育成
- ・短学活における「1分間スピーチ」の実施

### 生徒指導・進路指導の充実

- ・教育相談の充実（年2回）
- ・不安や悩み等の調査とその活用
- ・ガイダンス機能の充実
- ・支援を要する生徒への指導の充実（個別の指導計画・教育支援計画）
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携
- ・地域施設や人材の活用
- ・通級指導教室の充実
- ・ワンストップ挨拶の推進・清掃活動の充実

### 教育環境の整備

- ・基本的学習規律の徹底（2分前黙想からの授業開始）
- ・学校生活環境における言語環境の整備（掲示物、校内放送等）
- ・GIGAスクール構想に対応するための研修と実践
- ・ICTや教材・教具の活用
- ・学校図書館の活用
- ・ALTや学校図書館司書との連携・活用
- ・少人数指導とTT授業の工夫
- ・昼休みや放課後の学習補充（学習会の実施）

### 家庭・地域との連携

- ・各種通信、ホームページによる情報の発信
- ・生活習慣、生活リズムの実態把握による課題の共有
- ・「学びの道標」の配付と活用
- ・育友会活動や四校連絡会との連携
- ・校区内小学校との連携
- ・クロムブックの持ち帰りとキュビナによる既習事項の復習

